



やなかわ 築川ダムだより 号外



あら 新たに 飛翔、 恵みの 杜に 築く 浪漫の 湖

平成28年8月 岩手県 盛岡広域振興局 土木部 築川ダム建設事務所

事業説明会でいただいた質問と回答をご紹介します！

平成27年9月から11月にかけて開催しました
発電参入についての事業説明会では、築川ダムなどに
関する質問をたくさんお寄せいただきました。
改めてその内容をご報告いたします。



今後も、築川ダム建設事業に一層のご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

Q1

築川下流堤防上（見石地区）の市道が沈下しているようです。
堤防の嵩上げを県に要望しましたが、その後どうなっていますか？



要望を受けて、岩手県で現地調査を行った結果、調査時点で堤防に著しい
劣化は確認されませんでした。
今回は補修を行いませんが、今後継続した監視を、岩手県盛岡広域振興局
土木部河川砂防課で実施していきます。

Q2

築川ダム完成後に計画の雨量が降った場合、築川下流（築川橋）では
340m³/sの流量が流れる計画ですが、これは平成14年の洪水時と
比べるとどうですか？

また、発電で使用する最大取水量4.8m³/sを下流へ流すと、普段の川と
比べてどうなりますか？



築川下流で水位を観測している葛西橋の地点で比較します。
「①築川ダム完成後に100年に1回程度起こる規模の計画雨量が降った場合」、
ダムにより洪水調節を行った後の葛西橋地点での水位は、ダムがない場合の
「②平成14年7月における河川の状況」よりも、約50cm高くなります。
また、「③発電で使用する最大取水量4.8m³/sをダムから流した場合」の
葛西橋地点での水位は、「④平成27年度の平水流量※」よりも、14cm高く
なります。

※ 平水流量：1年を通じて185日はこれを下回らない流量

【葛西橋付近の水位及び流量】	水位	流量
①築川ダム完成後に計画雨量が降った場合	121.13m	340m ³ /s
②平成14年7月における河川の状況	120.61m	328m ³ /s
③発電で最大使用する水量4.8m ³ /sをダムから流した場合	118.29m	6m ³ /s
④平成27年度の平水流量の場合	118.15m	2.34m ³ /s



Q3 築川ダムに貯まった冷たい水が放流されると、下流の生物などに影響が出ませんか？

洪水以外の時は、取水口の高さを調節して水を下流に流すことができますので、ダム底部の低温水をできるだけ避けて、表面付近から取水して放流するように考えています。

Q4 築川ダムで発電しない時、ダムの水は下流に流れないのですか？

築川ダムでは、発電の有無に関わらず、河川に必要な水をダムの下流に流す計画としています。
発電は上記の必要な水を下流に流す過程の中で行うもので、発電を停止してもダム下流への水の流れは止まりません。

Q5 築川は最下流で北上川に合流します。北上川の水位が上昇した時、今の築川の河川計画に影響はありますか？

築川の河川計画では、北上川の水位上昇も考慮しています。

3ページにつづく

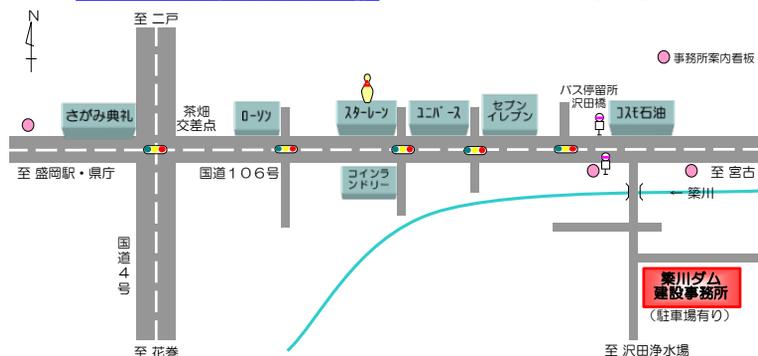


- <http://www.pref.iwate.jp/morioka/yanagawa/index.html>
-  **岩手県** Iwate Prefecture →
- 【岩手県公式ホームページ】 → [盛岡広域振興局](#) > [築川ダム建設事務所](#)

お気軽にご意見やご要望をお寄せください。

【発行】岩手県 盛岡広域振興局 土木部 築川ダム建設事務所

住 所：〒020-0817 盛岡市東中野字沢田94-1
 電話番号：019-652-8821（受付時間：平日 8時30分～17時）
 ファクス：019-652-8822
 E-mail：BA0011@pref.iwate.jp（びーえーゼロゼロいちいち@）





Q6

ダムの貯水量を超えて流れ込んだ場合、ダムからの放流は続きますか？



築川ダムには、ダム水位の上昇時における水位調節機能として洪水吐きを設置しますが、ゲートは付いていないため、一定の水位に達した場合、洪水吐きから自然に放流する構造（自然調節方式）となります。

そのため、洪水で、通常の状態である水位（常時満水位。標高279.2m）を超えて水位が上昇すると、最初に常用洪水吐きという穴からの放流が始まります。

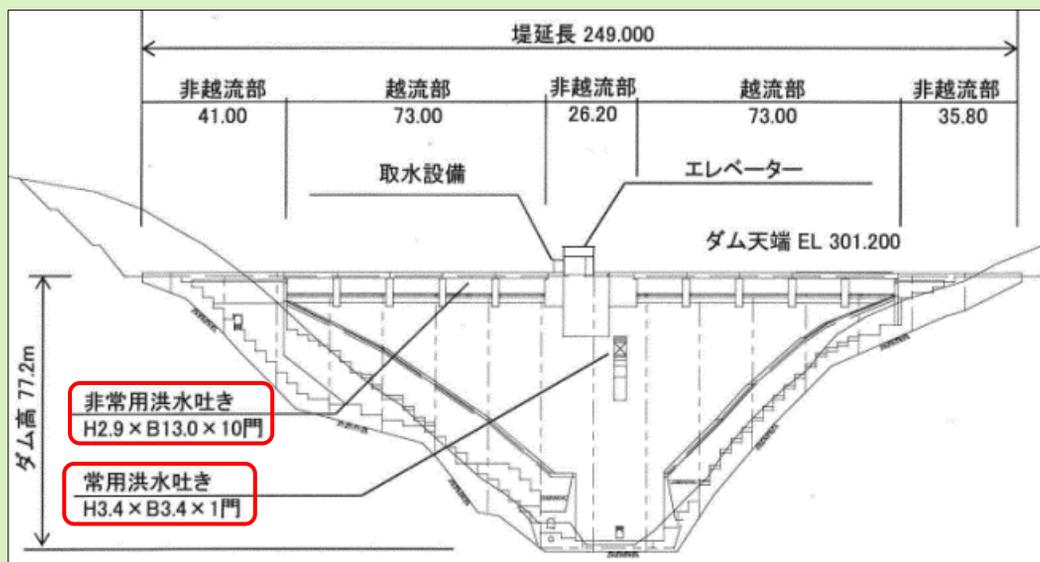
さらに水位が上昇してサーチャージ水位※（標高296.3m）を超えると、常用洪水吐きからの放流に加えて、非常用洪水吐きから越流します。

この放流は、ダムの水位が自然に低下していくまで続きます。

ただし、サーチャージ水位まで水位が上昇するのは、100年に1回程度の規模の降雨による洪水が発生した場合です。

※ サーチャージ水位：

洪水時、一時的に貯水池に貯めることのできる最高の水位





Q7

岩手県では100年に1回程度の規模の降雨による洪水の発生を想定しているようですが、それを超える規模の降雨もあるのではないのでしょうか？ダムが完成すれば、絶対に安心というわけではないと思います。関係機関とも連携して、住民へ避難の重要性を周知してください。



お考えのとおり、築川ダムが完成すれば今後絶対に安心というわけではありません。100年に1回程度の規模を超えるような降雨を経験することは少ないかもしれませんが、計画を超える降雨はいつ発生するか分かりません。

そのときには、河川が堤防を越えて流れる可能性もあります。

また、大雨は、洪水以外にも土砂災害などを起こす危険性もあります。

それらの災害に備えた日頃からの準備が重要です。

河川の水位や雨量、避難勧告の報道や広報車などから情報を集め、避難を判断する時の目安としてください。

なお、インターネットで「岩手県河川情報システム」を検索すると盛岡地区の水位情報から築川の水位情報を確認することができます。

▽ 岩手県 河川情報システム

<http://kasen.pref.iwate.jp/iwate/servlet/Gamen30Servlet>

Q8

森林の伐採が進み、降った雨がすぐに川へ流れているように思います。森林計画も適正に管理してください。



国や県などでは、保安林の指定や地域森林計画の策定などを通して、森林の持っている洪水や土砂崩壊の防止などの機能の維持に努めており、それらの区域では立木の伐採などにも制限があります。

築川や根田茂川流域でもそのような区域が設定されていますので、今後も森林の適正な管理が行われるように、今回の提言を担当部署へ伝えました。

Q9

避難対応が町内会まかせになっているように感じます。

また、高齢者には避難が困難な場所もあります。

避難対応はどのように取り組んでいますか？



盛岡市では、災害が発生する恐れがある場合などに住民のみなさんが適時適切な判断ができるよう、避難準備情報や避難勧告を発令しますので、その場合は、自らの安全を確保しつつ、地域で協力し合って避難行動をとるようお願いします。

なお、高齢者や障がい者などについては、自らが避難することが困難な方で、特に支援を要する方を「避難行動要支援者」とし、

「盛岡市避難行動要支援者避難支援計画」を策定し、市と地域などとの協働のもと、円滑な避難支援の確保を図っています。

また、岩手県でも、避難判断に必要な水位情報などが速やかに関係各所へ伝わるように、日頃から連携を取っていきます。



Q10 避難誘導を町内会で円滑に対応するため、防災マップにある避難所の再確認をお願いします。

 盛岡市では、市民が的確な避難行動をとることができるよう、平常時から、避難場所などを示した防災マップ、広報紙、パンフレットなどの活用や講習会、防災訓練の実施など、あらゆる機会を利用して避難に関する広報活動を行い、市民に対して周知に努めています。

避難所については、平成26年の災害対策基本法の改正に伴い、見直しを行いました。その中で、様々な災害において、誤った場所に避難しないよう、指定緊急避難場所を災害種別ごとに指定しています。

避難などについて、ご不明な点などがございましたら担当部署までお問い合わせ願います。

▽ 担当：盛岡市総務部危機管理防災課
電話 019-603-8031（直通）

また、岩手県でも、出前講座と題して、小学生へダムの役割などを説明する取組を行っています。

ダムができて防ぐことができない災害が起こりうること、避難行動を忘れてはならないことを様々な形でみなさんへ周知していきます。

Q11 築川ダムが完成すると、ダム下流には土砂が流れなくなりますか？河床が下がると、河川沿いの農地や住家にも影響が出るのでは？

 ダムが完成すると、貯水池内には土砂が堆積します。このことで、ダム下流の河川の河床が低下する可能性はありますが、日常の河川パトロールで適切な維持管理に努めるとともに、必要に応じて河川護岸の設置や補強などを行っていきます。

Q12 ダム建設工事では、沈砂池や沈殿槽を作っていますか？

 一般的に、河川で工事を行うと濁水などが発生しますが、築川ダム建設工事では、次のような配慮をしています。

- ① 濁水などが下流へ流れるのを軽減させるため、工事当初から、建設現場の下流側に土砂流出防止用のフェンスを設置しています。
- ② 濁水などの発生が想定される基礎掘削及び堤体コンクリート打設などでは、川に直接流れ込まないように濁水処理設備を設置し、濁水は沈殿処理した水を、また、コンクリート打設の排水は中和処理した水をそれぞれ下流河川に流します。



Q13 築川ダムは、100年に1回程度の規模の降雨に対応しているとのことですが、ダムの耐用年数も100年間ですか？

☞ 全国でも100年を経過した重力式コンクリートダムがありますので、築川ダムも適切に補修・更新することで100年以上使用することができると思っています。全国的にも、既存のダムを長く使用していけるように、計画的に延命化対策を図る取組を進めています。

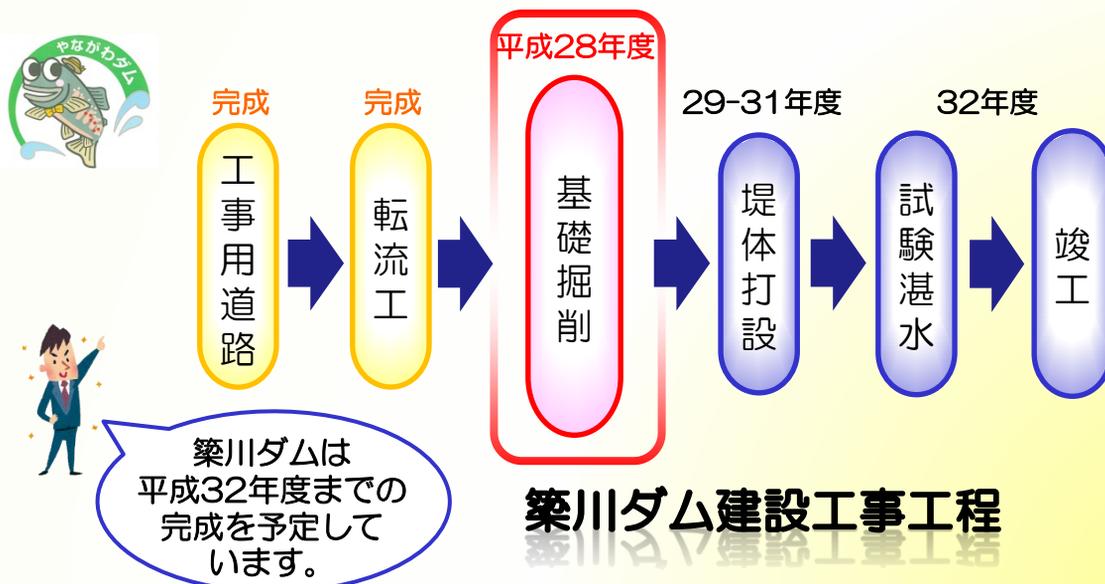
Q14 晴れていて河川の流量が増える状況ではないのに、ダム下流の水位が上昇することはありますか？

☞ 晴れている範囲より上流で、局所的な集中豪雨があった場合には水位が上昇することが考えられます。
また、洪水調節などを行うための貯水容量調整用のゲートがあるダムでは、下流が晴れている時に放流することもあるため、下流河川の水位が上昇することもあります。
しかし、築川ダムは、ゲートがない構造（自然調節方式）のため、そのようなことは通常ではありません。

Q15 常用洪水吐きに流木などが詰まることはありませんか？

☞ ダム堤体の上流側に流木などの流入を防止する設備を設置します。

7ページにつづく

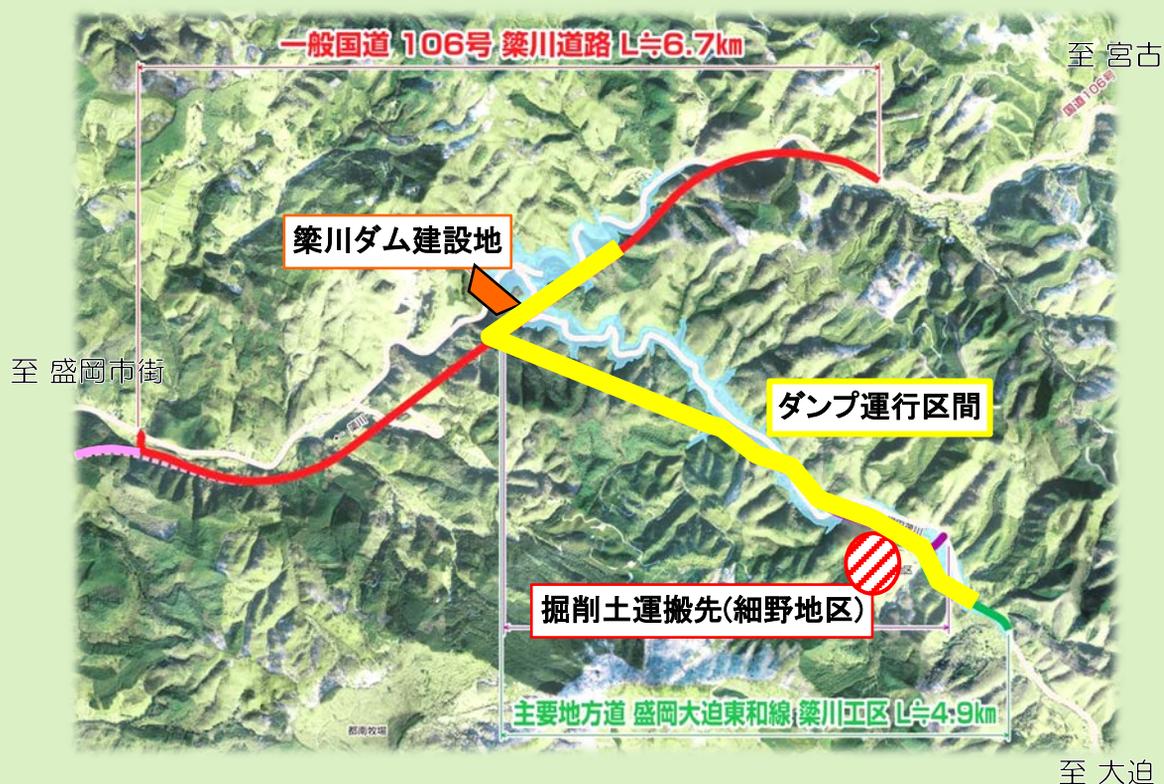




Q16 建設現場で発生した土砂はどこへ運んでいますか？



一般国道106号と一般県道盛岡大迫東和線の交差点から県道側へ約4km進んだ場所に土捨場を設け、工事の発生土を運搬しています。一般の交通への影響を少なくするため、旧県道も通行しています。



Q17 築川下流では、昭和57年から平成11年まで河川改修工事を行っています。工事は完了していますか？

現在も浸水する箇所があれば、住民へ周知してください。



一部には、課題があって未改修となっている箇所があります。その箇所については、河川改修完了に向けて取り組んでいきます。

このほか、岩手県 築川ダム建設事務所のHPにも「Q&A」を掲載しています。



▽ 築川ダム建設事務所 > Q&A

<http://www.pref.iwate.jp/morioka/yanagawa/qa/index.html>